

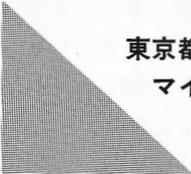
士写真フィルムが受託しました。

この事業は、事務量としても膨大なものとなりますので、その進行にあたっては、当館・受託会社双方から成る運営委員会をつくり、史料に対する接し方、具体的な作業手順、個々の文書ごとの撮影方法、進行管理等々大きな問題から細かな問題に至るまで協議しながら進めています。作業は館内処理を原則としましたので、撮影前の準備作業を担当する人から綴じ直しの職人さんまで、常時40～50人の大所帯となりました。撮影は16ミリフィルム自動検索仕様でおこなっています。

平成3年度には、江戸・明治・大正等戦前期資料のうち一部、約16,000冊の撮影を終えました。撮影コマ数にして約320万コマとなります。

初年度という事もあって、いろいろな問題が繁出しましたが、「史料が大事」を原点として解決方法を求めたため、時間のかかったものも多かったように思います。今後解決しなければならない問題もまだまだ多いのですが、私たちの使命が史料の保存と利用を合わせ持ったものである以上、これからも両制度の併存ができる方法を模索しながら作業を進めていきたいと思っています。

水野 保・東京都公文書館



東京都公文書館の マイクロ・プロジェクト 始まる

東京都公文書館では所蔵史料の原本保護と利用制度の拡充を図るため、平成3年度を初年度とするマイクロフィルム化事業をはじめました。期間は5箇年を予定しています。撮影対象は一般図書類を除く所蔵全史料のうちで、過去にマイクロフィルム化が済んでいない約13万余冊。平成3年度の撮影業務は、富